

地区だより
《東部地区》
（平・内郷・阿部・三和）
取材・執筆・写真
渡邊 一雄



夏井を元気に！

町の再生と復興を目指して

「夏井地区は、皆様もご存知のとおりイチゴやネギの生産でも知られている農業が盛んな地域で、太平洋に臨む自然豊かな地域です。地区を流れる夏井川付近では、毎年あじさい祭りや江筋筏下りなど多彩なイベントも行われ、地区民は笑顔と活気に満ち溢れていました。」

ところが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で多くの建物が崩壊、沿岸部の建物は津波によって流出し、農地にも大量の海水が流れ込みました。それに加えて原子力発電所事故も発生し、多くの住民が不安を抱えて生活をしています。



ども会が協力し、下大越地区内の通学路の除染を行いました。参加者は、カッパ、マスク、長靴、ゴム手袋などを着用し、3日間かけて高圧洗浄機で路面を洗浄しました。

除染作業は夏井地区全域で行われ、作業前の放射線量は毎時0.2〜0.3マイクロシーベルトでしたが、作業後に計測すると、平均で0.1マイクロシーベルト減少。慣れない作業で戸惑いもありましたが、除染の効果が出たことを嬉しく思います。子どもたちが安心して通学できるよう、これからも計測を続け、定期的に除染等を行う予定です。

また、平成23年11月12日（土）〜13日（日）には、「夏井公民館祭り」が開催され、地元農家有志が丹精込めて作った野菜や、つきたての餅が販売されるなど、多くの家族連れで賑わっていました。いわき産の農産物に対する風評被害は今も続いており、多くの農業者達が心を痛めています。消費者の反応に不安もあつたようですが、二日間であらう、〇〇〇人の来館者があり、農産物や加工品はほぼ完売。農家の皆さんにも笑顔が戻りました。開催にあたって尽力下さった猪狩館長は、「震災や放射能の影響で大変な状況にありますが、このような時だからこそ『元気な夏井』を発信していきたいですね」と笑顔で話してくれました。



今後は、農地の除染・除塩作業も大きな課題となつてきますが、引き続き住民と行政が一体となり、町の再生と復興を目指していきたいと思っています。

編集後記

悪夢のような震災と原子力発電所事故が発生した平成23年も過ぎ去り、新年を迎えることができた。だが、津波による多くの犠牲者の方々や避難生活を余儀なくされている人達、更に元氣を失いつつある被災地を見れば心痛むばかりです。

津波やその後の余震による農地の被害面積も、いわき市内だけでも23ヘクタールになるとのことですが、更に放射能除染作業を考えれば膨大な面積になることだろう。我々は立ち直れるのでしょうか。

このような困難な状況下でも、タイムリーな記事作りを心がけ「農業委員会だより」第54号の発行にこぎつけることができました。少しでも明るい話題をと思いながら放射能汚染除去を含む震災復興には多額の費用と多くの時間と努力が必要と思われず。我々農業者も消費者の皆さんへの「安全・安心な作物」を提供して風評被害を払拭し、少しでも希望を取り戻せる復興の一年にしたいものです。

（編集 渡邊一雄）

トピックス

の 焼き菓子店「野らぼう」 にようこそ

添野町の焼き菓子店「野らぼう」。その味と店の雰囲気ゆえに評判を呼び、営業日は多くの買い物客で賑わいを見せています。



経営者は、東京のイタリアンカフェで働いていたこともある小川慶子さんと、その御家族です。当初は受注販売のみでしたが、口コミで注文も増えたこともあり、平成22年10月に地元の添野町に工房をオープンしました。工房は父親の勇勝さんの手作り、焼き菓子の他にも、白茅や近隣農家で採れた新鮮な野菜がズラリと並んでいます。

特に、平成22年産の地元産米粉を100%使用したシフォンケーキやクッキー、地元のカボチャをふんだんに使ったカボチャプリンが大人気。オープンして1〜2時間で売り切れてしまうこともあるそうです。



焼き菓子は全て慶子さんの手作り

慶子さんに今後の目標を伺うと、「もっとお菓子の種類を増やしたいですね。いらっしゃった皆さんがホッとできるようなお店であり続けたいです。」と笑顔で話してくれました。

の 焼菓子「野らぼう」市

住所 所いわき市添野町桑木町52番地
営業 日水曜・日曜
営業時間 9時から15時まで
電話 0246-62-3467
※電話予約可（但し前日までに限る）

編集委員

三戸 近 渡邊 一雄
遠藤 靖 飯岡 千春 草野誠太郎